



Japan
Food
Research
Laboratories

第 11064672001-02 号
2011年(平成23年)08月08日

試験報告書

依頼者 有限会社 ビバテック



検体 フルボ酸(腐植土抽出液)

表題 抗菌力試験

2011年(平成23年)07月12日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

抗菌力試験

1 依頼者

有限会社 ビバテック

2 検 体

フルボ酸(腐植土抽出液)

3 試験目的

検体の *Streptococcus mutans* に対する抗菌力を試験する。

4 試験概要

検体に *Streptococcus mutans* の菌液を接種後(以下「試験液」という。), 36 °C で保存し, 60秒及び6時間後に試験液中の生菌数を測定した。

なお, あらかじめ予備試験を行い, 生菌数の測定方法について検討した。

5 試験結果

結果を表-1に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数が測定できることを予備試験により確認した。

表-1 試験液1 mL当たりの生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/mL)		
		開始時*	60秒後	6時間後
<i>Streptococcus mutans</i>	検 体	7.8×10^5	2.8×10^5	<10
	対 照	7.8×10^5	5.8×10^5	1.8×10^5

<10: 検出せず

対照: 生理食塩水

保存条件: 36 °C

* 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し, 開始時とした。

6 試験方法

1) 試験菌

Streptococcus mutans IFO 13955

2) 菌数測定用培地及び培養条件

SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社]、浸漬平板培養法、35 °C±1 °C、2日間好気培養

3) 試験菌液の調製

試験菌を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35 °C±1 °C、18~24時間好気培養した後、生理食塩水に浮遊させ、菌数が $10^7 \sim 10^9$ mLとなるように調製し、試験菌液とした。

4) 試験操作

検体10 mLに試験菌液を0.1 mL接種し、試験液とした。36 °C±1 °Cで保存し、60秒及び6時間後に試験液をSCDLP培地[日本製薬株式会社]で直ちに10倍に希釈し、試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお、対照として、生理食塩水を用いて同様に試験し、開始時並びに60秒及び6時間後に生菌数を測定した。

以 上